

第3講

平面ベクトル(1)

基本事項

◇ ベクトルとその演算

① ベクトルの定義

- (1) 線分 AB に A から B へ向かう向きを与えたものを有向線分 AB という。有向線分 AB において、A を始点、B を終点という。

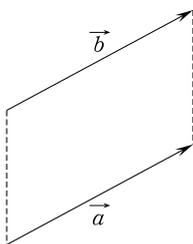
有向線分で、その位置を問題にせず、向きと長さだけを考えたものをベクトルという。

有向線分 AB の表すベクトルを \overrightarrow{AB} と書く。

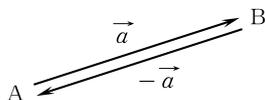
有向線分 AB の長さをベクトル \overrightarrow{AB} の大きさといい、 $|\overrightarrow{AB}|$ と表す。

ベクトルは \vec{a} などと表されることもある。

- (2) 2つのベクトル \vec{a} , \vec{b} について、それらを表す有向線分の向きと長さが一致するとき、これらのベクトルは等しいといい、 $\vec{a} = \vec{b}$ と表す。



- (3) ベクトル \vec{a} と大きさが等しく、向きが反対であるベクトルを \vec{a} の逆ベクトルといい $-\vec{a}$ で表す。 $\vec{a} = \overrightarrow{AB}$ とすると、 $-\vec{a} = -\overrightarrow{AB}$ であるから、 $\overrightarrow{BA} = -\overrightarrow{AB}$ である。



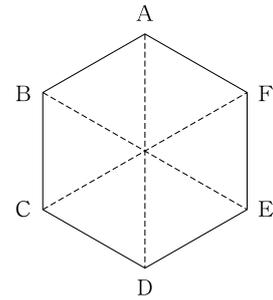
また、 \overrightarrow{AA} は大きさが0のベクトルと考え、これを零ベクトルといい $\vec{0}$ で表す。

$\vec{0}$ の向きは考えない。

例題 1

正六角形 ABCDEF において、 $\overrightarrow{AB} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{BC} = \vec{b}$ とするとき、次のベクトルを \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。

- (1) \overrightarrow{AC}
- (2) \overrightarrow{CD}
- (3) \overrightarrow{EB}


D 考え方

ベクトルの和、差（たし算、引き算）を用いて考えてみよう。

【解答】

$$(1) \quad \begin{aligned} \overrightarrow{AC} &= \overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} \\ &= \vec{a} + \vec{b}. \end{aligned}$$

…(答)

$$(2) \quad \overrightarrow{AD} = 2\overrightarrow{BC} = 2\vec{b}$$

であるから、これと(1)の結果より、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{CD} &= \overrightarrow{AD} - \overrightarrow{AC} \\ &= 2\vec{b} - (\vec{a} + \vec{b}) \\ &= -\vec{a} + \vec{b}. \end{aligned}$$

…(答)

$$(3) \quad \overrightarrow{DE} = -\overrightarrow{AB} = -\vec{a}$$

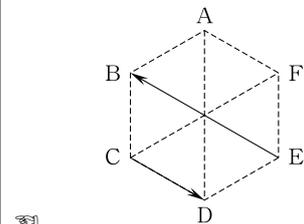
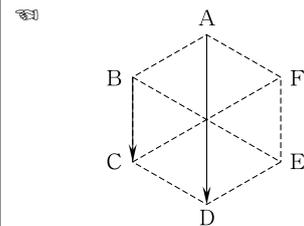
であるから、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AE} &= \overrightarrow{AD} + \overrightarrow{DE} \\ &= 2\vec{b} + (-\vec{a}) \\ &= -\vec{a} + 2\vec{b}. \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{EB} &= \overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AE} \\ &= \vec{a} - (-\vec{a} + 2\vec{b}) \\ &= 2\vec{a} - 2\vec{b}. \end{aligned}$$

…(答)



$$\begin{aligned} \overrightarrow{EB} &= -2\overrightarrow{CD} \\ &= -2(-\vec{a} + \vec{b}) \\ &= 2\vec{a} - 2\vec{b} \end{aligned}$$

のように考えることもできる。

演習**3・1**

三角形 OAB があり，重心を G とする．さらに辺 AB を 2 : 1 に外分する点を P，線分 AG を 2 : 1 に内分する点を Q とする．

- (1) \overrightarrow{OP} ， \overrightarrow{OQ} をそれぞれ \overrightarrow{OA} ， \overrightarrow{OB} を用いて表せ．
- (2) 辺 OB を 6 : 1 に内分する点を R とするとき，3 点 P，R，Q が一直線上にあることを示せ．また，PR : RQ を求めよ．

3・2

平行四辺形 OABC の辺 OA を 1 : 3 に内分する点を D，辺 OC の中点を E とし，線分 AE と線分 BD の交点を P とする．

- (1) \overrightarrow{OB} ， \overrightarrow{OD} ， \overrightarrow{OE} をそれぞれ \overrightarrow{OA} ， \overrightarrow{OC} を用いて表せ．
- (2) \overrightarrow{OP} を \overrightarrow{OA} ， \overrightarrow{OC} を用いて表せ．
- (3) 直線 OP と辺 AB との交点を Q とするとき， \overrightarrow{OQ} を \overrightarrow{OA} ， \overrightarrow{OC} を用いて表せ．